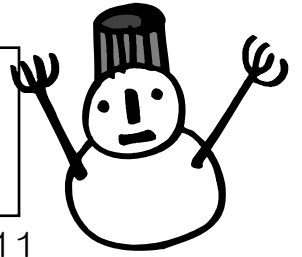


2010 冬 no. 11



「日本の図書館 ——ヨーロッパ滞在を踏まえた評価——」

外国語学部ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻准教授 今野 元

日本のなかにはいると、日本のことは分からない。海外に出て初めて、日本のことが見えてくる。これは、学術的な図書館についてもそうである。

日本では図書館の本は開架部分が充実しているが、ヨーロッパでは開架は辞典類のみという図書館も少なくない。開架だといつも思いがけない様々な本に出会って、想像を膨ませることができるが、閉架だとただ請求した本が見られるだけである。しかも書庫が郊外などに離れて存在する場合は、請求から到着までに数日かかる上、到着予定日は必ずしも厳守されない。更にベルリンの場合、戦災後の蔵書確認がいまだに不完全で、請求が「なしのつぶて」に終ることもしばしばだった。

日本では通常図書館の本は自由に閲覧できるが、ヨーロッパには閲覧禁止の本がある。私は歴史家としてベルリン国立図書館で何度もヒトラー『我が闘争』を請求したが、遂に一度も閲覧できず、職員からの理由説明もなかった。「闘う民主制」を掲げるドイツ連邦共和国では、反体制的な言論の自由は保障されておらず、『我が闘争』は販売されていないどころか、研究者が図書館で閲覧することすら容易ではない。日本では誰にでもドイツ語版の閲覧が可能で、邦訳などは書店で堂々と販売されている。

日本では図書館の本は普通コピーできるが、ヨーロッパでは近代以前の書籍はコピー禁止のことが実に多い。同じ本でも、輸入されて日本にあるものは比較的丈夫なのに、現地所蔵のものがボロボロで崩壊寸前ということがよくあった。またヨーロッパでは、図書館が蔵書保護に神経質である。コピー禁止の場合は情報の持ち帰りが一苦勞で、通常はノートやパソコンに「写経」するのだが、こっそりカメラで撮影したり小声で読み上げて録音したりというようなスパイまがいの裏技もあるらしい。

日本の大学図書館には日本語文献はもちろん、基本的な欧米語文献も結構揃っているが、ヨーロッパの図書館に非欧米語文献は期待できない。日本でドイツ研究をするのと、ドイツで日本研究をするのとでは、条件に歴然とした違いがある。

このように我々は、多くの点で有利な図書館を持ちながら、その幸福を日常十分に認識していないように思われる。もちろんヨーロッパ近代史研究に関しては、日本には存在しない刊行史料・文献もあり、現地に赴いて図書館に籠る必要性は依然として存在する。しかしネット上で公開される史料・文献も増えており、相互貸借で注文できるものもかなりあるため、日本にいたことの不利さは縮減しつつある。我々が県大図書館にしても、その規模は大きくないものの、意外な希少本が所蔵されていることもあり、また相互貸借を通じて世界各国の書籍を、長久手にいながら入手することができる(これについては、職員各位に感謝するよりほかはない)。我々としては、いま実際に有しているものの価値を再認識した上で、それを十分に生かしつつ日々の仕事に打ち込みたいものである。

■図書館システム更新と休館のお知らせ

3月に図書館システムの大掛かりな更新を行います。使いやすく、便利になります！

たとえば…

- ◇守山キャンパス図書館とシステムを統合し、OPAC(蔵書検索)で、長久手・守山両キャンパスの蔵書を同時に検索できるようになります。
- ◇「マイライブラリ」機能など、さまざまなサービスが充実します。



また、それに伴い、3月4日(木)～3月22日(月)まで休館し、2月15日(月)以降、一部のサービスを休止します。ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いします。

◇ 2月15日(月)～3月22日(月)の間休止するサービス

1 OPAC(蔵書検索)のデータ更新

検索は可能ですが、所蔵・貸出状況等の情報は更新されません。

2 貸出情報の確認・予約

開館中の貸出・返却は可能です。

3 ホームページ「利用者情報」サービス

3月23日以降は新規サービスとなります。詳しくは別途ご案内します。

4 携帯 OPAC サービス(3月1日より休止)

5 Z39.50 検索

サービス終了します。

※ 学外への複写・貸借依頼は2月23日(火)までにお出してください。

それ以降の依頼については、入手に時間を要することがあります。

■「本」のお仕事人シリーズ「『編集者』のお仕事」を開催しました

去る12月16日(水)、企画事業・「本」のお仕事人シリーズ第3弾として、皆さんの要望が多かった編集者の方にご登場願い、お仕事について語っていただきました。講師は県大の先輩の高橋玲子さん。県大卒業後、2006年より出版社「リベラル社」に勤務し、ベストセラー「雑貨屋さんぽシリーズ」を生み出した若手編集者です。会場は学生の皆さんで満員となり、熱気あふれる会となりました。皆さんからの質問に高橋さんが答える形で進められましたが、編集のお仕事についてはもちろん、就職活動の体験談もお聞きできて、時間が足りないほどでした。



■講演会「危険思想?!ダーウィンの進化論」を開催しました



2009年はダーウィン生誕200年、『種の起源』刊行150年にあたります。

それにちなみ、図書館1階では、企画展示「こんなところにダーウィン・あんなところに進化論」を開催中(2月12日まで)ですが、その関連企画として、横田幸雄教授(県大情報科学部)による講演会を開催しました。

進化論を軸とした幅広い内容でしたが、先生の親しみのある語りと、身近な例をスライドで見せることで、分かりやすくお伝えできたのではないかと思います。様々な年代の方が聴講され、盛況のうちに終了しました。



寄贈いただきました、先生方の本を紹介します

山村亜希著 『中世都市の空間構造』 吉川弘文館 2009 [210. 4/Y32]

「図書館にまつわるお話会～宮崎学術情報センター長を囲んで～」を開催しました

大学生活に様々な場面で関わってくる図書館を、より快適に利用してもらおうと、1月21日(木)、宮崎真素美学術情報センター長と学生有志による懇談会を開きました。

図書館に対し、日頃皆さんの感じていること・疑問・要望など、率直な思いを伺える、とても有意義な時間でした。いただいたご意見は、今後大事に検討させていただきます。



開館カレンダー

2月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

□ 9:00～21:20 ■ 9:00～17:00 ■ 休館

愛知県立大学 学術情報センター 長久手キャンパス図書館

E-mail etsuran@lib.aichi-pu.ac.jp

http://www.aichi-pu.ac.jp/library/